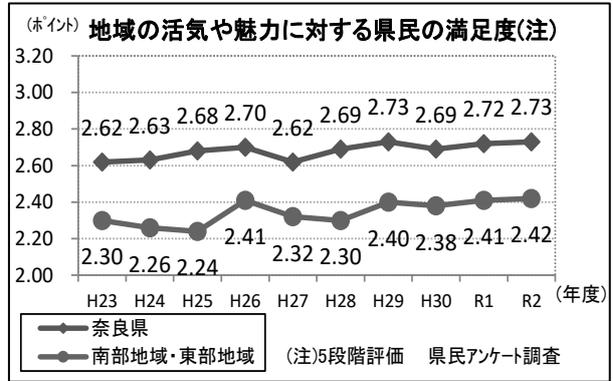
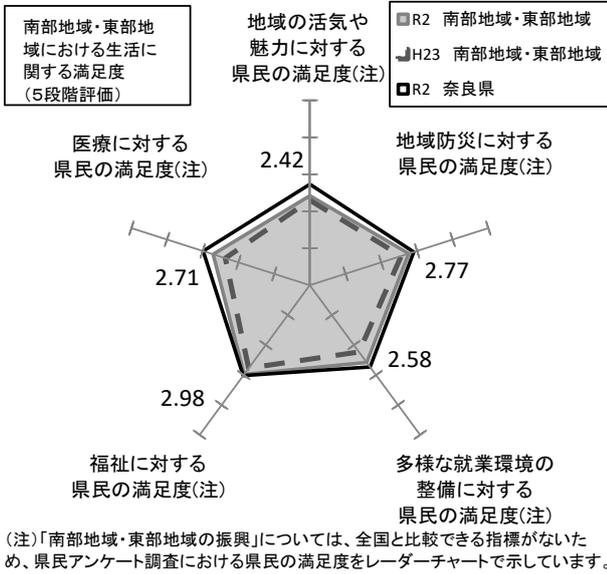


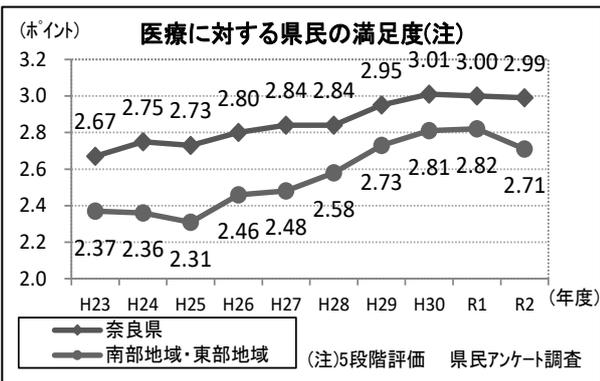
25. 南部・東部の振興

【担当部局等】
南部東部振興監

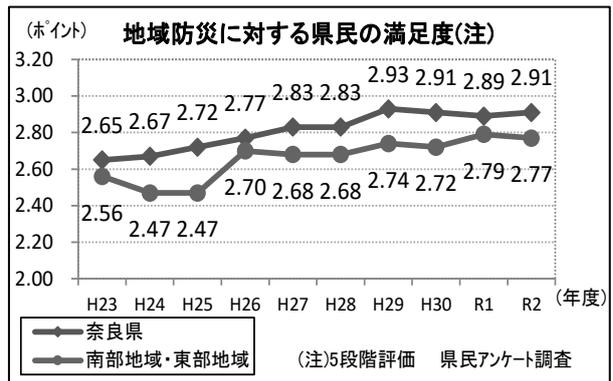
1. 現状分析



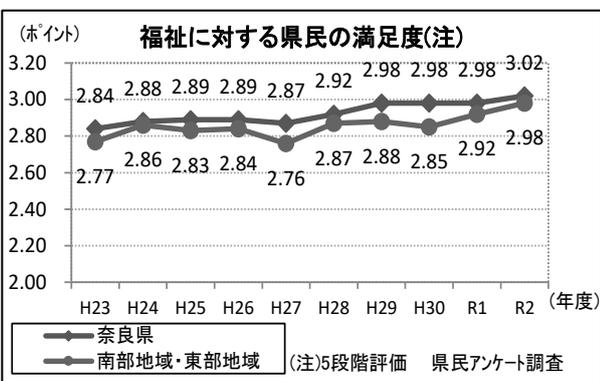
南部・東部地域の活気や魅力に対する満足度は、平成23年度からは微増していますが、近年横ばい傾向となっています。



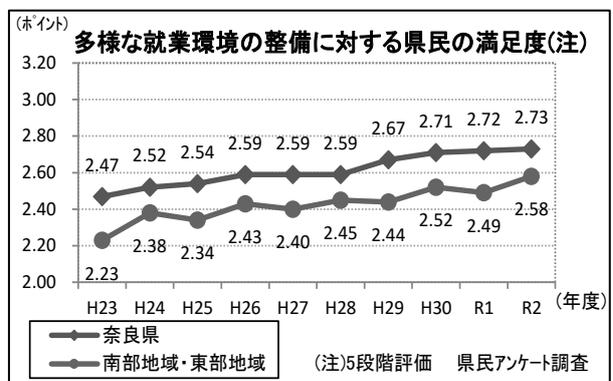
南部・東部地域の医療に対する満足度は、地域医療体制の整備推進等により昨年度まで着実に上昇していましたが、新型コロナの影響等により令和2年度は減少しました。



南部・東部地域の地域防災に対する満足度は、過去最高ポイントとなった昨年度からは低下しましたが、災害に強いインフラづくりの推進等により上昇傾向にあります。



南部・東部地域の福祉に対する満足度は、介護サービスの充実等により、2年連続で上昇しています。

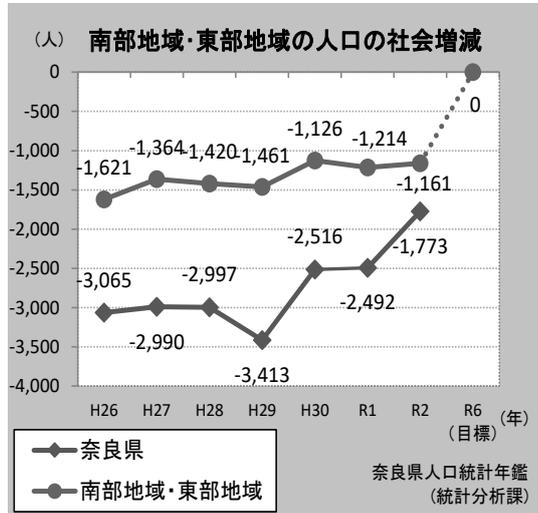


南部・東部地域の多様な就業環境の整備に対する満足度は、雇用の掘り起こしとマッチング支援や女性・高齢者の就業支援等により少しずつですが、着実に上昇傾向にあります。

2. 各テーマの「目指す姿」達成に向けた進捗状況

坊	25.南部・東部の振興
テーマ	(137) 南部・東部の振興
目指す姿	令和6年までに南部地域・東部地域の人口の社会増減を均衡させます。

CC(チーフコーディネーター)
(137)
南部東部振興監 藤井 純一



南部地域・東部地域の人口の社会増減(人)				
基準値		実績値	目標値	進捗率(傾向)
▲ 1,621	↗	▲ 1,161	0	28.4%
H26年(2014)	460(人)	R2年(2020)	R6年(2024)	6/10 年目
直近の指標の動き				
▲ 1,126	↘	▲ 1,214	↗	▲ 1,161
H30年	▲ 88(人)	R1年	53(人)	R2年

指標の動き (基準値からの動向、直近の動き、進捗率等)	進捗状況とその要因 (進捗状況の背景・要因分析等)
<p>令和2年度の南部・東部地域における人口の社会増減は1,161人の減となり、基準値である平成26年の1,621人減から460人、昨年度の1,214人減から53人改善しました。</p> <p>また、目標値である社会増減の均衡までの進捗率としては28.4%となっています。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大により、全国的に大都市圏への人口集中を是正する動きが活発化しており、奈良県においても、ワーケーション・リモートワークの推進や、奥大和地域の移住定住を推進する情報発信等に取り組んできました。奈良県南部・東部地域においては、特に県外への転出が減少したことで、社会増減が改善されました。</p>

「目指す姿」達成に向けた「主な取組」に関する指標の動き

主な取組	関係する指標	指標の動き						
頻りに南部地域・東部地域を訪れてもらうための仕掛けづくり	スポーツ・芸術イベント参加者数(南部地域・東部地域)(人)	1,895	↗	3,315	↗	4,610	↗	21,294
		H29年度(2017)	1,420人	H30年度(2018)	1,295人	R1年度(2019)	16,684人	R2年度(2020)
南部地域・東部地域の魅力を多くの人に知ってもらうための情報発信	移住サイト「奈良に暮らす」アクセス件数※(件)	480,724	↘	473,263	↗	510,844	—	180,610
		H29年度(2017)	▲ 7,461件	H30年度(2018)	37,581件	R1年度(2019)	-	R2年度(2020)

※令和2年度よりカウント方法が延べ件数から実件数へ変更されたため数値が減少しています。

「目指す姿」達成に向けた成果・取組

コロナ禍において、従前のイベントを小規模に実施することや、密を招かず実施できる「MIND TRAIL奥大和 心のなかの美術館」を開催することで、関係人口の創出に取り組みました。

森林と水を守りつつ、人と経済の好循環を図り、持続可能な地域社会を形成していくため、令和3年3月、新たな「南部・東部振興基本計画」を策定し、南部・東部地域の振興を図ることとしました。

3. 次年度に向けた課題の明確化

25. 南部・東部の振興

(137) 南部・東部の振興

内部要因(奈良県内部の状況…ヒト・モノ・カネ等の資源や風土等)

<奈良県の持っている強み>

- 1.豊かな自然環境、おいしい空気や水
- 2.豊かな森林資源、吉野材ブランド
- 3.地域の住民の絆が強い
- 4.世界遺産をはじめとする豊富な歴史・観光資源(「紀伊山地の霊場と参詣道」平成16年7月登録、「明日香・藤原の宮都とその関連資産群」平成19年1月暫定リスト登録)
- 5.情報通信基盤の充実
- 6.南部・東部の魅力浸透等による観光入込客数の回復

<奈良県の抱えている弱み>

- 7.産業用地の不足
- 8.人口減少と高齢化による活力低下
- 9.若者の就業の場の不足
- 10.農林業等地域産業の衰退
- 11.医師の確保が困難
- 12.路線バスの休廃止・減便の進行
- 13.日常生活サービスの脆弱化

<奈良県への追い風>

- a.国による国土強靱化の推進
- b.「住みたい」「住み続けたい」意識の高さ
- c.多様なライフスタイル指向の高まり
- d.国による地方創生の動き
- e.国道168号線新天辻工区、十津川道路Ⅱ期工事の事業化

外部要因(奈良県外部の状況：社会情勢の変化、制度改正、県民ニーズ等)

(新型コロナウイルス感染症に関連する追い風)

- f.東京一極集中の是正の動きによる田園回帰と移住相談の増加
- g.デジタル化による新たな働き方の普及

<奈良県への向かい風>

- h.人口減少、労働人口の減少
- i.企業の生産拠点の海外移転
- j.食品や木材の輸入品の増加

(新型コロナウイルス感染症に関連する向かい風)

- k.旅館等宿泊事業者の経営悪化

《強みで追い風を活かす課題》

【重要課題】移住の推進
(1,3,5,b,c,d,f,g)

《弱みを踏まえ追い風を活かす課題》

- ・医療・高齢者支援の充実(8,11,12,b,c)
 - ・紀伊半島アンカールの早期整備(7,a,b,e)
 - ・公共交通の確保(12,b,c)
- 【重要課題】住民が安心して暮らせる基盤整備(13,b)

《強みで向かい風を克服する課題》

【重要課題】地域資源の活用(地域の魅力の発見、創造)(1,2,3,4,h,i)
【重要課題】アフターコロナに向けた観光交流の促進(1,4,5,6,k)

《弱みを踏まえ向かい風に備える課題》

- 【重要課題】企業立地の促進(7,8,9,h,i)
- ・農林業等地域産業の振興(10,h,j)

4. 重要課題等に対するこれまでの評価、取組及びそれらを踏まえた今後の取組方針

《強みで追い風を活かす課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
移住の推進(テーマ(137))	南部・東部振興基本計画の柱の一つとし、これまで起業家やフリーランス等、手に職を持つ若者等を主なターゲットとして、移住相談や移住施設の整備等の支援を進めてきました。令和2年度は44件の移住相談を受けるとともに、移住施設3件に対し整備支援を実施しました。	令和3年度改訂した南部・東部振興基本計画においても「訪れてみたくなる地域づくり(交流促進)」を柱の一つとしており、引き続き、自然環境等豊かな資源を活かし、ビジネスの創造や移住の促進に取り組みます。また、新型コロナウイルス感染症の影響から、テレワーク等の新たな働き方が急速に広がる中、これまでのターゲット層以外への移住誘致にも積極的に取り組みます。

《弱みを踏まえ追い風を活かす課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
住民が安心して暮らせる基盤整備(テーマ(137))	災害時の安心・安全の確保のため、道路防災対策及び土砂災害対策の推進に取り組んできました。	今後も引き続き、アンカールート(命の道)の整備を推進するとともに、近い将来発生が予測され、奈良県でも大きな被害が見込まれている南海トラフ巨大地震等による大規模災害発生の際に、県内外からの支援を受け入れや、救難救助活動等の拠点として迅速に対応できる大規模広域防災拠点の整備に向けた取組を推進します。

《強みで向かい風を克服する課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
地域資源の活用(地域の魅力の発見、創造)(テーマ(137))	南部・東部地域の豊かな自然環境や森林資源を活かした「食」と「泊」を売り出すオーベルジュ等の整備や、奈良県植栽計画に基いた植栽景観を整備するとともに、それら地域資源を活かしたスポーツや各種イベント等の開催や支援を実施しました。	温泉街等を中心とする旅館集積地や古道等の資源(南部地域西側)や、キャンプに代表されるアウトドアやサッカー、自転車等のスポーツの活動拠点(東部地域・南部地域東側)といったポテンシャルを活かし、人が集まる「拠点の形成」と地域を支える「人材の育成・確保」に取り組みます。
アフターコロナに向けた観光交流の促進(テーマ(137))	奥大和地域の地域資源を活かしたスポーツ、音楽、芸術イベントの開催や、大手旅行雑誌や旅行サイト、鉄道会社と連携したプロモーション等を実施し、交流人口の増加に向け取り組んできました。令和2年度はコロナ禍でも開催できるアートイベント「MIND TRAIL」を新たに実施しました。	豊かな自然環境を有する奥大和地域は、コロナ禍においても多くの観光客が訪れており、多くの注目を集めています。新型コロナウイルス感染拡大収束後においても観光地として選ばれる地域となるため、現在の奥大和地域の価値を高めるとともに、効果的な情報発信に取り組みます。

《弱みを踏まえ向かい風に備える課題》

課題名	これまでの評価、取組	今後の取組方針
企業立地の促進(テーマ(137))	急峻で平地が少なく、産業用地を確保することが困難である南部東部地域では、農林業の基幹産業の落ち込み、労働人口の減少に対し、地域資源を活かした起業等を促進するための創業支援や、販路開拓、拡大に取り組んできました。	京奈和自動車道の整備に伴い、大阪、京都、名古屋など大都市圏へのアクセスが飛躍的に向上し、企業用地としてのポテンシャルも更に高まってきていることから、既存工業団地の活用や、御所IC周辺や名阪国道沿線を中心とした、新たな産業集積地としての拠点の形成に取り組みます。